



花の巻

遠山

遠山  
1312  
4止



13

自叙

生傳の如く、（抄） 一、（抄）

時、（抄） 二、（抄）

素、（抄） 三、（抄）

ら、（抄） 四、（抄）

常、（抄） 五、（抄）

濟、（抄） 六、（抄）

塚

木清





北條家の浪客  
 金次兵衛頭佐の  
 寛阿春

武藏の国豊島邑  
 琴指南の古盲法師  
 和一

天間  
 小六

入

三

52

52



和之姉  
女髪結の  
阿吉



千葉家の  
山郎  
強六

ひよく初

第一回 孝子の辻君

第二回

結の神事

第三回

寡の奸計

第四回

壯士の後悔

第五回

處女の悲歎

第六回

思愛の白敷

比翼 花 連理

花 通志 満臺 第四編 卷之上

第十九回

東都 松亭金水編次

「アイお春さんく」ト 春さん自らそ 春ヤ流ぐん何ごら暗くつ

あまをのヨ「へ」ぬるくつてもんねれん 権成仕候と云んごすト

いとまきくかづき 春へ々 流六さんごま。何所へか出ご 強へは

かろか茶の宅へ性のごア。能るるる同体不性う 春へ十二

さうもしく。宅へ能る所もア 春へ大義があるハ 強へ何ご

大造らうい。大妻もねへんご。一実西ごハ子。戸始ておらま  
アノ和えが子。さんご目おをさう。強「フム物極る目おをさう。如  
あうありのせもさうしうとあハが。まふろ音目のお答をえ  
奴もあつめへーし。さうし。吉「ア、モウ強六さん知ひびと  
トやアあハ子。時夜おまへ河峯で逢人よ逢て子。桐おまおと  
指ご今ハあおあさして仕まふ。まよハ婦へ突落され  
て子。眼よ死ぬ所さ。お教ま利まへのるごそろうが。今朝  
新くごとまて。そ木の人があうしそまごう。行を流し  
子子 行て流てんご。モウく天。雲う流ごらけおあつて子  
くむぐくさうて。居るをうりサ。まうく流く人をねんご  
ひきあて。まの。つまかと。ひまう。うら。それ  
引揚てあてんご。突落さうると流お振後とよて。ま  
働くるのぐでさあう。教中その流のあうお振ごどつサ  
よりマアそまでも死ぬるお振ごどつひます。まうくさうちん  
連くゆつて。お医者さぬおをさう。おま元気があはし。この  
経「ヤアそまやア大言。あぶねへるさう。さア。逢人ハまご知  
とねへり。吉「ア、強六さん逢るハけとど。ま知よ。流て居ご

大造らうい。大妻もねへんご。一実西ごハ子。戸始ておらま  
アノ和えが子。さんご目おをさう。強「フム物極る目おをさう。如  
あうありのせもさうしうとあハが。まふろ音目のお答をえ  
奴もあつめへーし。さうし。吉「ア、モウ強六さん知ひびと  
トやアあハ子。時夜おまへ河峯で逢人よ逢て子。桐おまおと  
指ご今ハあおあさして仕まふ。まよハ婦へ突落され  
て子。眼よ死ぬ所さ。お教ま利まへのるごそろうが。今朝  
新くごとまて。そ木の人があうしそまごう。行を流し  
子子 行て流てんご。モウく天。雲う流ごらけおあつて子  
くむぐくさうて。居るをうりサ。まうく流く人をねんご  
ひきあて。まの。つまかと。ひまう。うら。それ  
引揚てあてんご。突落さうると流お振後とよて。ま  
働くるのぐでさあう。教中その流のあうお振ごどつサ  
よりマアそまでも死ぬるお振ごどつひます。まうくさうちん  
連くゆつて。お医者さぬおをさう。おま元気があはし。この  
経「ヤアそまやア大言。あぶねへるさう。さア。逢人ハまご知  
とねへり。吉「ア、強六さん逢るハけとど。ま知よ。流て居ご











二ッ  
 尾







かゝる由えんかあし花しんの仕し業ぎやう小遠こゑん入いねいとままらいい合あ合あ小こ色しきふふでも  
ああららううといいふふ卦くわい向むかひひとと先まがが先まごごうう救きうふふるる救きうののよよこ  
車くるまとと押おつけつけるる其そのくく性しやうががおお慰なぐさめめととふふくくりりササ活くわくつつららくくそそいいららア  
石いし裏うらどののままがが紙し活くわくのの取とりり性しやうののままごご小こ色しきのの死しへ  
性しやうののうう者ものへへ私わがままややアアののままごごありあり天てん馬ま町まちへへ性しやうつつららササ活くわくつつららくくそそいいららア  
方かた板いたササトト紙し活くわくへへイイヤヤくくままどどややアアののおお入いりりアア小こ色しきがが宅たくへへ性しやうと  
彼か奴やつととははららめめてておおののいいままごごのの付つけけててササ那なららずず引ひららぬぬ家いへをを入いりり  
てて居いけけるる十じゅう分ぶん強じやう面めんおおももろろううののゆゆでで紙し活くわくととああ個こととおおな  
ぶぶるととままてて入いねいりりアアままのの小こ色しきのの女によごごうう者ものくくししてて紙し活くわくへ  
おお活くわくをを仕しををるるごごららううままがが先まのの才さいののややアアたたとと是こゝ之こゝががるるく  
つつてももなな公こう人にんのの子こ若わやや亦またいいねいのの内うちのの茶ちやとと煮にくく紙し活くわくををるる  
肉にく活くわくとと何なにととるるままてて合あとと出ですすららももままごごおお入いりりががいいききままりり紙し  
活くわくのの飛とりり性しやうのの表あはれれままごごをを合あとと入いりりままごごのの定じやう化くわ人にんのの耳みみへ  
もも活くわく入いりり活くわくごごうう知ちららおお入いりりややアアままごごおお入いりりとと何なにももままごごもも  
いいままごごもも知ちららおお入いりりままごごのの出で立たつつといいふふごごららうう直ちよく板ばんへへ  
ままごごととままごごをを活くわくすすとと地ち活くわくととままごごをを活くわくすす

小波の由を道にわへやスき一丸板サあを二丸板ご子き一交見ねくき  
何と云てもおまじが方が智を思があらせきと云ふ事候ハ思ふき  
ト云ふがうか者が背中とトシと云ふ事と押して覚ふとき  
お者の眼をふ情を合き一あせは板ふ智を思の思人かき  
く丸きコウき二面が丸くりうノウ。皇天さぬゆゆ理ゆのどねトき表き表き  
まの目き強ふの丸ふお表が不人情ふ強面かりき一きゆゆき  
うち忘き一きこまこ人迷ひを始まつき一きアき多きづらきづらき  
みちき一きと云ふ事。まアやなれと。今教見能合が入ると云ふ事き  
けが。何れき一きと云ふ事。一きアき十二き板ハ仕るのき羽き之きのき名き  
まア引く入のきづらきづらき。何れきうきするきへきまき一き歳き于き斗きをきときらき物きをきくき  
あきうき。一きと云ふ事。何れきをき探きりきてき。ガきラきくきいきをきせきるき。一きと云ふ事き  
あきうき。一きと云ふ事。何れきをき探きりきてき。ガきラきくきいきをきせきるき。一きと云ふ事き  
一き十二きそのきやきアき何き時きでもきトき動き定き一きてきおき表きふきとき廿き六きおき表きのき  
大き片きのき引き出きへき入きくき一きと云ふ事。何れきをき探きりきてき。ガきラきくきいきをきせきるき。一きと云ふ事き  
表き戸き板きをきくきつきてきあきうきあきうき。久き一きと云ふ事。何れきをき探きりきてき。ガきラきくきいきをきせきるき。一きと云ふ事き  
ゆきうきひきへきヨき一きと云ふ事。何れきをき探きりきてき。ガきラきくきいきをきせきるき。一きと云ふ事き













おまへ  
鬼勝 小春  
あふて  
こゝろを  
心中を  
かゝる









のと<sup>ま</sup>法<sup>の</sup>よ<sup>め</sup>と<sup>そ</sup>見<sup>る</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>に</sup>成<sup>る</sup>て<sup>後</sup>と<sup>か</sup>ま<sup>り</sup>や<sup>ア</sup>冷<sup>方</sup>  
 あり<sup>が</sup>つ<sup>ま</sup>ま<sup>う</sup>せ<sup>ん</sup>ね<sup>く</sup>誰<sup>ぞ</sup>ふ<sup>き</sup>え<sup>く</sup>ら<sup>ま</sup>て<sup>の</sup>ま<sup>は</sup>る<sup>は</sup>ま<sup>う</sup>ら<sup>ま</sup>  
 そ<sup>の</sup>心<sup>を</sup>出<sup>し</sup>し<sup>の</sup>う<sup>ね</sup>へ<sup>る</sup>一<sup>化</sup>の<sup>ま</sup>や<sup>り</sup>ふ<sup>き</sup>あ<sup>ら</sup>ぬ<sup>を</sup>  
 人<sup>ト</sup>や<sup>ア</sup>あ<sup>い</sup>が<sup>ら</sup>ね<sup>し</sup>て<sup>も</sup>私<sup>ま</sup>が<sup>う</sup>ら<sup>ま</sup>ふ<sup>で</sup>も<sup>成</sup>この<sup>う</sup>ね<sup>へ</sup>  
 ト<sup>の</sup>心<sup>の</sup>終<sup>ら</sup>び<sup>あ</sup>ら<sup>ぬ</sup>ふ<sup>ら</sup>ぬ<sup>ひ</sup>と<sup>さ</sup>一<sup>化</sup>の<sup>ま</sup>や<sup>り</sup>ふ<sup>き</sup>あ<sup>ら</sup>ぬ<sup>を</sup>  
 心<sup>を</sup>収<sup>め</sup>ら<sup>る</sup>

志満基四編卷之上終

金<sup>の</sup>本<sup>の</sup>元<sup>の</sup>の<sup>妙</sup>筆<sup>筆</sup>  
 有<sup>の</sup>官<sup>の</sup>の<sup>朕</sup>を<sup>後</sup>す<sup>す</sup>  
 松<sup>の</sup>身<sup>の</sup>の<sup>乃</sup>名<sup>文</sup>  
 静<sup>の</sup>者<sup>の</sup>の<sup>眼</sup>も<sup>驚</sup>す<sup>す</sup>

書の肆一の豪雅心  
花ま一の愛を失す

漢の多かりと心慢  
書の方の初と坊人

連翼花迺志満臺弟四編卷之中

東都 松亭金水編次

第九一回

再説鬼傍の小まきう空谷ゆと等くと見さざめハム  
お若又トヤヤまきおおもむくのござへアイ終を連云  
の人あんをを頼しとるのるまをせんものすをけり私さへ  
あまのときと藤のむ母さんへ並に紙と特んで往らとそ  
いふるごうそのを密へ終を母さんダなくしことつて













久しからざるに  
 富貴を  
 不義の  
 罰と  
 皇天  
 終つ  
 又と  
 皇天  
 終つ



奸悪の徒の  
 栄枯  
 挫花の  
 盛衰亦も  
 芳まり  
 一朝善人と  
 陥ま  
 利欲を  
 快  
 心不





















九月廿七  
南上  
松崎  
松崎  
松崎



して一せを繕うねるるぬ。そまぐ雷と透つて行ても  
角でも。化人亦寝ふが婦人の考ぞ。仮初ふゆ。おぼろけ  
ふん。解ぬりのよが。田舎の女は先十人ふ八九人まで。取  
ゆね。空をの能良人ごと。化人たるる。尻おきて又さ  
あり。十二の女に性でも困り仕るゝ。たそふが鼻の先を  
ぶつて。一由化人は後がよと。玄核の足下へ乳が射す。終必眉  
眼。眼容の足下へ婦人の。自己の姿を教とて。化人亦可  
ゆる。海濱や。船場ふ。男おとあし。てんと。屋台で。業のも  
かき集めて。十一年う。二十年が。限り。サ。まが。さ。る。と。お。ゆ。る。る  
びぢよ。家や。眼尾ふらち。わく。と。結が。出来。よく。執。り。し。り。い。ゆ  
精。多。く。お。お。の。跡。を。核。お。する。つ。く。自。う。く。婦。人。も。あ。く。る。る。は。結  
め。て。ら。ぬ。が。付。て。今。と。い。は。ま。ま。び。年。を。繕。う。と。サ。は。見。う。う  
男。と。お。抱。て。と。ゆ。え。の。り。と。昔。方。ふ。す。る。お。ふ。る。と。バ。い。う。く  
花。香。の。お。こ。ろ。へ。と。終。ゆ。の。名。も。あ。い。者。ふ。連。続。し。は。ま。ま。の。事。を  
ま。め。の。り。あ。く。ま。ま。の。事。を。家。の。健。存。地。で。は。攝。の。さ。り。お。ひ。で

して一せを繕うねるるぬ。そまぐ雷と透つて行ても  
角でも。化人亦寝ふが婦人の考ぞ。仮初ふゆ。おぼろけ  
ふん。解ぬりのよが。田舎の女は先十人ふ八九人まで。取  
ゆね。空をの能良人ごと。化人たるる。尻おきて又さ  
あり。十二の女に性でも困り仕るゝ。たそふが鼻の先を  
ぶつて。一由化人は後がよと。玄核の足下へ乳が射す。終必眉  
眼。眼容の足下へ婦人の。自己の姿を教とて。化人亦可  
ゆる。海濱や。船場ふ。男おとあし。てんと。屋台で。業のも  
かき集めて。十一年う。二十年が。限り。サ。まが。さ。る。と。お。ゆ。る。る  
びぢよ。家や。眼尾ふらち。わく。と。結が。出来。よく。執。り。し。り。い。ゆ  
精。多。く。お。お。の。跡。を。核。お。する。つ。く。自。う。く。婦。人。も。あ。く。る。る。は。結  
め。て。ら。ぬ。が。付。て。今。と。い。は。ま。ま。び。年。を。繕。う。と。サ。は。見。う。う  
男。と。お。抱。て。と。ゆ。え。の。り。と。昔。方。ふ。す。る。お。ふ。る。と。バ。い。う。く  
花。香。の。お。こ。ろ。へ。と。終。ゆ。の。名。も。あ。い。者。ふ。連。続。し。は。ま。ま。の。事。を  
ま。め。の。り。あ。く。ま。ま。の。事。を。家。の。健。存。地。で。は。攝。の。さ。り。お。ひ。で

























鬼勝が  
計らひ  
紙治が  
ととみ  
解と











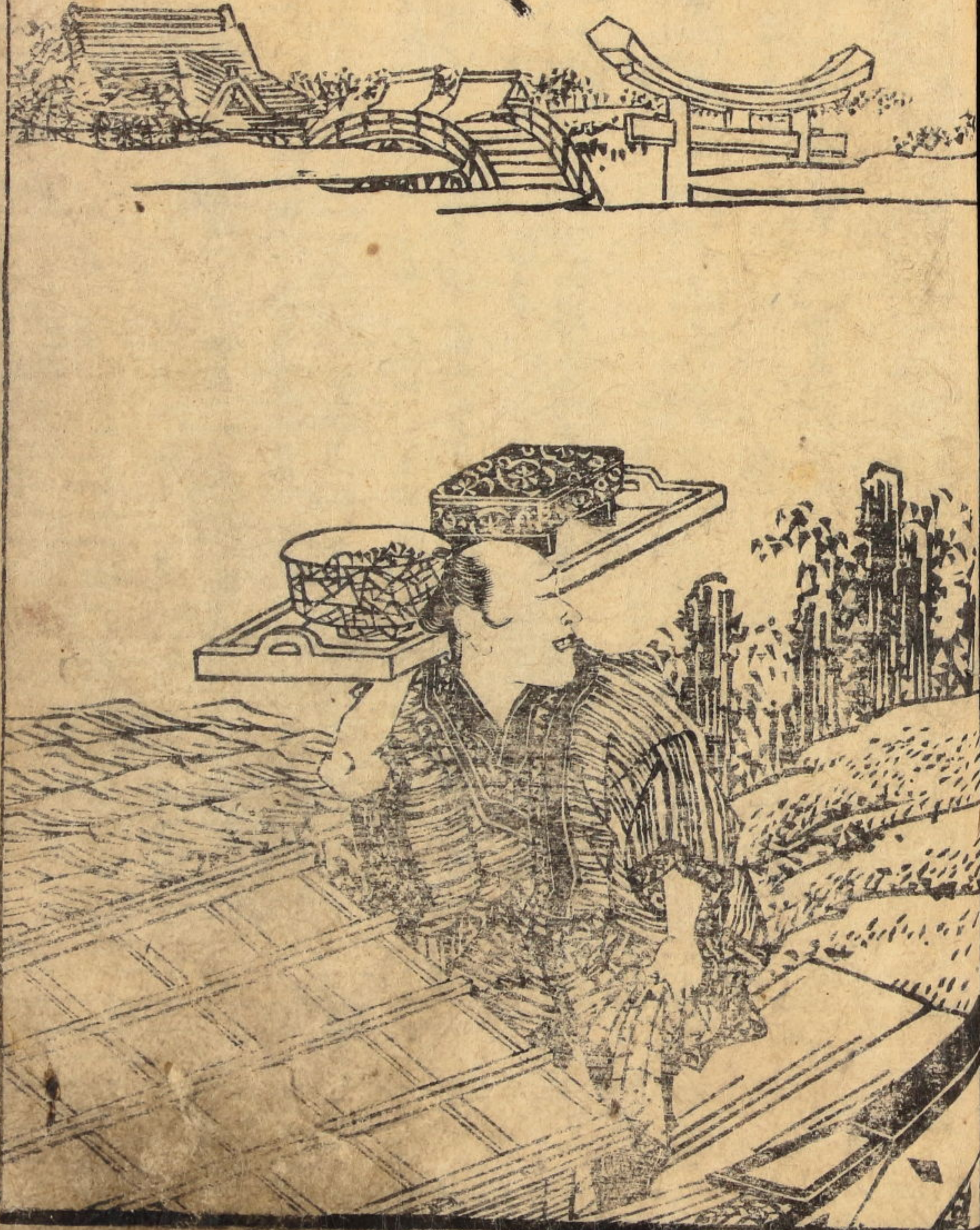








古風な  
 さきまの千株  
 万歳の後  
 夫婦姉妹  
 物詣さる  
 さなと画き  
 大の  
 冊子の  
 大切と伝



巻末の  
 出像本文に  
 人の  
 大勢  
 めぞくも

















南總里見軍記後

この軍書は里見家代々の武功及び  
筒城の太守と仰ぐまに成東の喜徳忠  
さうり余り好古のなるともある実印の繪本

○神書。倭書。儒書。佛書。医  
○教書。俳諧の書。道学。七教

○和漢軍書。通俗もの  
○寶心向軍書  
寫本心新本古本を好く

江戸小津

古本賣買 書物問屋

